

頭皮、唾液腺の順で clearance の遅延が認められた。このことは脳シンチ陽性時期に出現する新生未熟毛細血管は正常脳組織には認められない物質透過性の亢進を示しているのかも知れない。

合、 $^{67}\text{Ga}$ は分布の高い骨部がバックグラウンドになること、涙腺に分泌することのほか、良性腫瘍、炎性腫瘍にも強く集積することなどの読影鑑別上不利な点があるが、 $^{57}\text{Co}$ は特異的腫瘍集積性においては明らかに優れている。

### 31. 眼部腫瘍シンチグラフィーの臨床経験

○土田 竜也 中島 利之  
(城北市民病院・RI室)  
南 睦男 田中 尚子  
(同・眼科)  
杉本 浩一 安澄 剛興  
(大阪市大・眼科)  
越智 宏暢  
(同・放)

腫瘍親和性物質による腫瘍シンチグラフィーの眼科領域における応用は①偽腫瘍と真性腫瘍との鑑別、②良性か悪性かの判定、③治療効果、手術後の経過観察などの諸点からみて、従来の眼科的検査法の情報間隙を埋める新しい方法の一つとして意義ある診断法といえる。とくに眼部腫瘍のうち眼瞼、結膜その他表層に所在するものを除き、網脈絡膜、眼窩に発生した腫瘍は視診、触診、眼底検査、生体顕微鏡検査、レ線検査をはじめ、Biopsy、超音波検査法を駆使しても確定診断を下し難い場合が希れではない。例えば眼底検査においては白内障、眼球炎、出血、瞳孔閉塞、癒着などのある場合には検査が困難であり、レ線検査では眼窩骨病変がなく、軟部組織に局在する場合には殆んど無効である。

これに対して腫瘍集積性の利用による陽性描画は悪性腫瘍と炎性腫瘍、形成不全などの鑑別に応用できるなど、質的情報を提供することに特色がある。

我々は  $^{67}\text{Ga}$ -citrate と  $^{57}\text{Co}$ -Bleomycin を眼部腫瘍20症例（悪性腫瘍6例、良性腫瘍7例、炎性腫瘍7例）に使用し、服部の腫瘍シンチグラフィーを試み、次の結果をえた。

シンチグラフィー領域が眼部を中心とする場

### 32. 肺門部腫瘍に対する核医学的診断の意義

○伊藤 春海 石井 靖 鈴木 輝康  
坂本 力 森 徹 鳥塚 莞爾  
(京大・放)  
浜本 研 藤田 透 高坂 唯子  
(同・中放)

肺門部付近には原発性肺癌や悪性リンパ腫等種々の疾患があるが、この領域はX線診断学上時に難かしい問題を提示する。病変の存在診断、鑑別診断に工夫を要する領域である。従って種々の断層撮影や造影、更に外科的な診断技術が要求される。これら従来の方法に核医学的手法がどの様に有効であるかが今回の報告の要旨である。

肺門部疾患のうち、原発性肺癌は、進行例或いは早期例を問わず診断学上の工夫を要するが、気道の部分的狭窄はエアロゾルスキャンが有効であるし、その原因については  $^{67}\text{Ga}$ -citrate によるスキャンが有効であると考えられる。一方気道狭窄を伴わない他の疾患では換気、血流スキャンは大半正常で  $^{67}\text{Ga}$  は、陽性、陰性と種々の場合がある。この様にして造影、外科的生検診断の前にある程度の鑑別診断が可能と思われる。この様に核医学的手法は従来の診断技術と適切に結びつけば非常に有用と考えられる。